



患者さまと小樽市立医療センターをつなぐ広報誌

しんらい

信 頼

第10号
2011年
7月

平成 23 年 7 月 25 日 第 1 版 小樽市立 脳・循環器・こころの医療センター 広報委員会



みなさまから たくさんの“しんらい”を得るために
私達は ひとつ ひとつの“しんらい”を大切にします。

市民の皆さまの病院として

当院は、脳、心臓、血管、精神の専門病院として、医師を中心にあらゆる職種の職員が連携をしながら救急医療を積極的に推進しています。検査科もその一員として24時間いつでも検査に対応できるよう努力しています。また、信頼される検査結果を迅速に提供するとともに、心電図やエコー検査など患者さまのご協力が必要な検査では、やさしさと思いやりを持って患者さまに接することを心掛けています。

築37年になる当院は老朽化や構造的に古いこともあり、いろいろな面でご不便をお掛けして申し訳なく思っております。計画中の新病院では、患者さま中心の医療を継続する中で、設備の面でも患者さま、市民の皆さまに満足していただけるよう、小樽病院と合同で実施設計を進めているところです。

これからも、市民の皆さまの病院として、信頼される病院となるよう職員一同努力してまいります。



検査科技師長
小路 雅之

小樽市立 脳・循環器・こころの医療センター 【基本理念】

『市民本意の医療を行い、地域に根ざした市民に信頼される病院を目指します』

— 基本方針 —

- 1) 24時間365日、救急医療を積極的に推進します。
- 2) 安全な医療を提供できるように、職員の安全教育を強力に推進します。
- 3) 患者さまの人格、信条を尊重し、患者さまに優しい医療を提供します。

当院では、みなさまにお支払いいただく入院医療費の計算方法について、厚生労働省が推進する新しい計算方法DPC対象病院として認定を受けるために、準備を進めております。



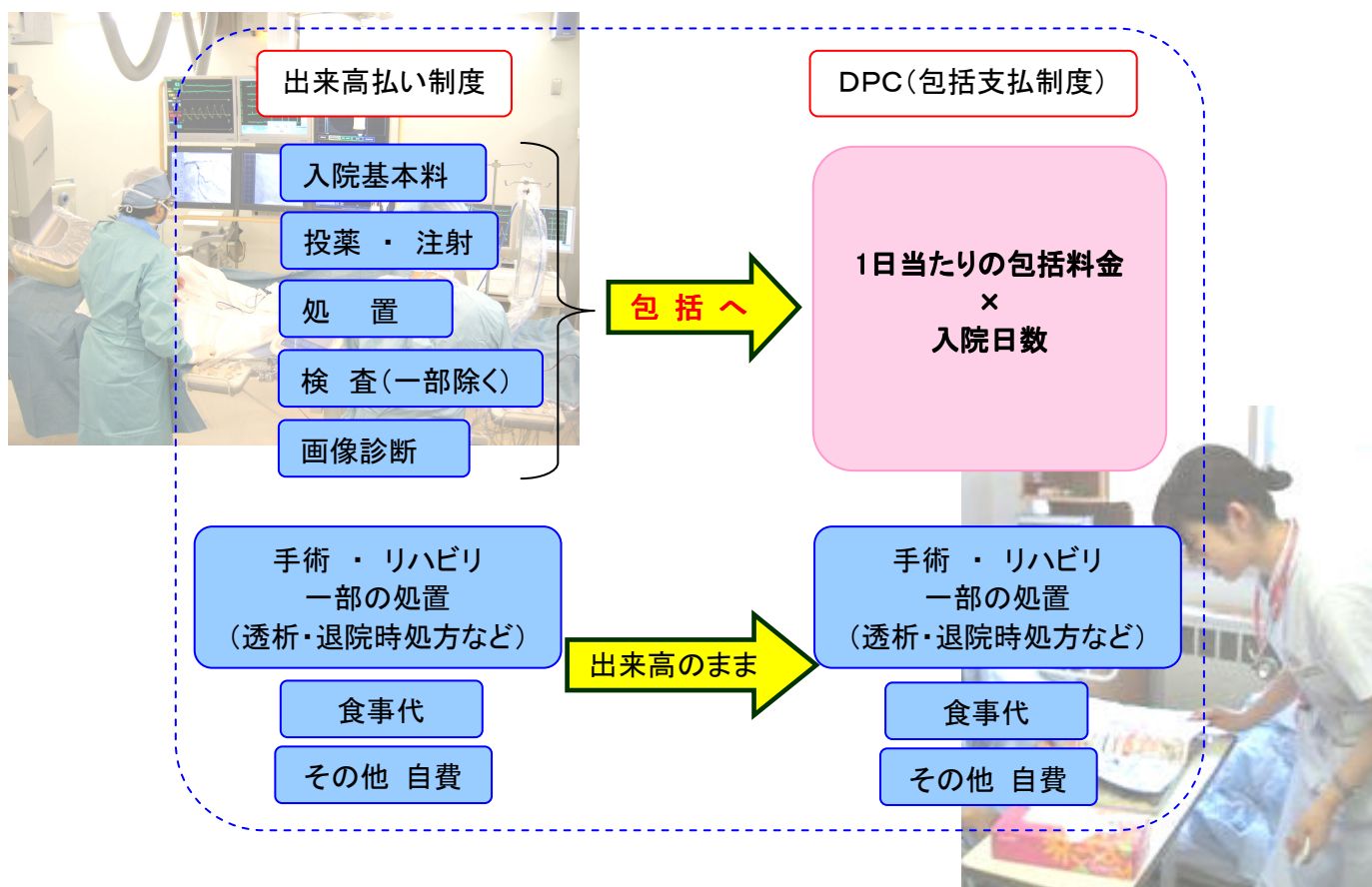
DPC (包括支払制度) ってなに？

DPCとは、現在の診療行為ごとに計算する“^{てきだかばら}出来高払い制度”とは異なり、入院患者さまの病気・症状・治療内容に応じて厚生労働省が定めた分類（診断群分類）ごとの1日当たりの定額からなる^{ほうかつひょうが}包括評価料金と、従来通りの出来高評価料金を組み合わせた新しい計算方法のことをいいます。



DPC 入院医療費 = 『1日当たりの包括料金』 × 『入院日数』 × 『医療機関別係数^{※1}』 + 『出来高料金』

※1 病院の機能に応じて病院ごとに決められる一定の係数です。これにより同じ病気や治療でも病院によって医療費が異なります。



どうしてDPC制度に変わるの？

国が方針として、全国の病院に対して医療の標準化と質の向上（全国どこの病院でも同じ病気であれば同じ治療を受けられる）を推進しているためです。

当院においても質の高い医療を提供するためにDPC制度の認定が取れるよう準備をしております。また、平成23年4月1日現在の全国におけるDPC対象病院は1,449病院になります。

対象年度	対象病院数
平成15年度	82 病院
平成16年度	144 病院
平成18年度	359 病院
平成20年度	715 病院
平成21年度	1,281 病院
平成22年度	1,391 病院
平成23年度	1,449 病院

(平成23年度準備病院数201病院)



DPC対象病院の入院費に関する疑問？

☆こうがくりょうようひ現在の高額療養費制度の扱いはどうなりますか？

高額療養費制度の取り扱いは現在と変わりはありません。

☆すべての入院患者さまがこのDPC制度の対象になりますか？

当院が来年4月にDPC対象病院になった場合

循環器内科	}	DPC制度対象になります。(注1、注2)
心臓血管外科		
脳神経外科		
精神科	—	DPC制度対象にはなりません。

(注1) 精神科病棟に入院した場合、労災保険・公務災害が適用される場合、交通事故で自費扱いになる場合等はDPC制度対象にはなりません。

(注2) 長期入院した場合や、一部の病気によっては現在と同じ出来高制度の場合もあります。



☆入院費は高くなりますか？

DPC制度では入院患者さまの病気・症状・治療内容に応じて1日当たりの医療費が決まります。従って、出来高払い制度と比べて高くなる場合もあれば安くなる場合もあります。また、入院した日数によっても1日当たりの医療費が変わる仕組みになっております。

☆患者側がDPC方式と出来高払い方式を自由に選択できますか？

厚生労働省が定めるDPCの対象となる病気の場合は、DPC方式以外の計算は認められておりません。



第1回 両院合同健康教室を開催しました

今年度から、新病院への取り組みとして両院の地域医療連携室が合同で『両院合同健康教室』を企画することとなり、その第一回目が5月17日に生涯学習プラザで開催されました。

この企画は医師だけでなく、病院のいろいろな部門の職員が担当して健康教室を行います。記念すべき第一回目は当院薬局の白井博薬剤長にお願いし、「薬の相性ってあるの？」というテーマで講演をさせていただきました。薬の飲み合わせやサプリメント（栄養補助食品）との相性などについてのお話で、約20人の市民の方が集まり、受講された方々が真剣にメモを取られる姿が印象的でした。また、最後の質問コーナ

ーでは参加者のほとんどの方が質問や意見をされ、終始アットホームな雰囲気の中、笑い声も聞かれるほどでした。参加した市民の方からは「身近な内容で非常に分かりやすかった」「また やってほしい」と、うれしい言葉もいただきました。

『両院合同健康教室』に併せて市立小樽病院の「出張プチ健診」も開催され、手軽に健康診断を受けられた方からは、「出張してくれるとありがたい」との言葉も聞かれ、充実した健康教室となりました。

今後は2カ月に1回の間隔で開催を予定しています。広報おたるに掲載して、お知らせしますのでぜひご参加ください。



第1回講師の白井薬剤長



出張プチ健診

2011年度 新入看護職員研修 成長し続ける看護師をめざして



昨年4月に看護師に関する法律が改正され、病院として新採用者の研修が努力義務化されました。これを受け、当院では新入看護師の教育・研修企画を従来のものから一新し、今年度からは全ての新人研

修で他の病院施設の看護師も参加できるようにしました。

目指すのは1年に1度誰もが必ず研修を受け、看護師として成長し続けることにあります。その手助けをするため、毎年いろいろな研修を企画していきたいと思います。



当たり前前の日常の大切さ

＋ 東日本大震災 医療支援報告



東日本大震災の医療支援のメンバーとして現地入りした二人の先生が、先日院内で講演を行いました。

5月に日赤のボランティアとして岩手県に行った当院の臨床心理士の先生は、被害の大きさに比べて自分たちができることの限界を感じ、せめて「東北の人たちを忘れないでいること」が私たちにできることかもしれないと言っていました。

この春まで当院に勤務していた児童精神科の先生は、「子どもの心のケアチーム」の一員として4月に宮城県に行きました。7年前の新潟県中越地震の時には、滞在していた1週間のうちにも復旧が実感できたが、今回の被害は桁外れであり、先行きの見えない不安の大きさは計り知れないものがあると述べていました。彼は講演の中で「当たり前前の日常の大切さを痛感した」と言います。「子どもたちはたくさん送られてくる支援のお菓子を食べ、お祭りの屋台のような炊き出しを受けたりする。慰問に訪れた芸能人を間近に見て、取材のカメラを向けられる。これは子どもたちにとってまさに“祭り”、つまり非日常である。しかし、本当に子どもたちが

取り戻すべきなのは、友だちと遊んだり、勉強をしたり、部活に励んだりという、当たり前前の日常の生活のはずだ」

なるほど、そういう視点もあるのかと考えさせられました。しかしながら、住まい一つ取っても、日常を取り戻すということは、なかなか実現が難しい状況のようです。

また、こんなことも語っていました。「大人たちは、支援を受けるという受身の立場に居続けるのではなく、“役割”を求めている。自分たちができることは何か、何らかの役割を担って誰かの役に立てることはないかと考え、行動を始めていた。こうした実感が、彼らの気持ちを支える大きな力になるのだと思う」

これは私たちの生活、私たちの心の健康を考える上でも大切なポイントの一つかもしれません。

被災地ではまだまだ苦しい生活が続くのでしょうか。「彼らの今」を忘れず、私たちに何ができるかを皆さんも一緒に考えていきましょう。

文：小樽市立医療センター副院長 高丸勇司



ひと・人

『精神保健福祉士』

いげた 井下田 充洋（医療相談室勤務）



精神保健福祉士とは、精神科患者様の保健や福祉に関する援助を行なう専門職です。

患者さまの抱える生活問題や社会問題の相談を聞き、解決のために必要な制度利用や、社会参加に向けての施設を紹介するなど、医療と地域の架け橋の役割を担っています。患者さまの人権保護も役割の一つであり、そのことを心掛けながら、他職種と連携し、患者さまがよりよい生活を送れるよう、支援していきたいと思ひます。

小樽市立医療センター

ホームページのご案内



小樽市立医療センター

検索

入院患者さまへの「おみまいメール」を受け付けています。

※詳しくはホームページをご覧ください

- ◆受付時間 午前8時40分～/午後1時30分～
- ◆休診日 土・日曜日、祝日、年末年始

広報紙「しんらい」第10号1版

発行者：小樽市立 脳・循環器・こころの医療センター

病院長 馬淵 正二

〒047-0036 小樽市長橋3丁目11番1号

電話(0134)33-4151・ファクス(0134)32-6347